

鹿 島

環境データ集

ENVIRONMENTAL DATA

2026

環境方針

長期的な環境ビジョンを全社で共有し、
環境保全と経済活動が両立する持続可能な社会の実現を目指す。

1

自らの事業活動はもとより、建造物のライフサイクル全般と、
地域環境保全／環境修復事業を対象に、
脱炭素、資源循環、自然再興に取り組む。

2

上記取り組みを支える共通の基盤として

- 環境の保全とその持続可能な利用に資する技術開発を推進する。
- 事業に関わる有害物質につき自主管理も含め予防的管理を推進する。
- 積極的な情報開示を含め、広くステークホルダーとの連携を図る。

鹿島環境ビジョン

● ビジョン策定の背景

鹿島は、建設事業における環境上のリスクと機会を以下のように評価しています。

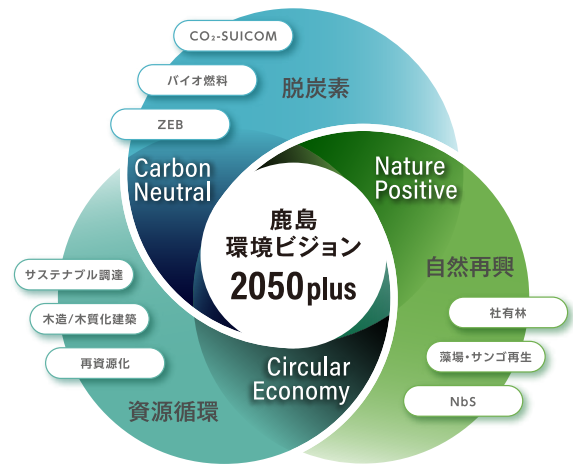
脱炭素社会	2050年のカーボンニュートラルという目標に対応するため、再生可能エネルギーの導入とともに社会の省エネルギー化が急務である。 - なかでも建築物の省エネ化は削減効果とともに費用対効果、対応の容易さの点からも優先度の高い施策として位置づけられており、ゼロエネルギービルへの取組みを中心に建設業への期待は大きい。 - 資源使用量が多く、資材の生産・加工・輸送に関わるCO₂排出も大きい。
資源循環社会	- 建設業は資源消費量、廃棄量の大きい産業であることから、資源利用の効率化の余地あり。 - 他産業由来のものも含め再生材活用のポテンシャルが大きく、資源循環への役割が大きい。 - 建造物の長寿命化を通じ、ストック社会の創出にも役割は大きい。
自然共生社会	- 建設事業を通じて直接自然環境を改変する立場にあり、地域の生態系に関与している。都市再開発等では生物多様性復元のポテンシャルも大きい。 - 人口の都市集中が進むなか、都市での生物多様性復元の重要性は高まる。 - 木材調達等、資源調達を通じて採取場所の生物多様性にも関わる。

● 鹿島環境ビジョン2050plus

鹿島は2013年に、「鹿島環境ビジョン：トリプルZero2050」を策定し、持続可能な社会を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点でとらえ、2050年までに鹿島が達成すべき将来像を「Zero Carbon」「Zero Waste」「Zero Impact」と表現し、全社で達成に向けて取り組んできました。

2024年、環境ビジョンを見直し、「鹿島環境ビジョン2050plus」として改定しました。3つの分野「脱炭素」「資源循環」「自然再興（自然共生から変更）」が相互に関連しあっている（相乗効果・トレードオフ）ことも認識したうえで、グループの目標や行動計画を再構築しています。

これらの取組みは、当社だけでの実行が難しいことを私たちは認識しています。顧客、社会と協力して取り組んでいく意思と、2050年の先を見据えた持続性を「plus」に込めて、鹿島は新たな環境ビジョンのもと、環境保全と経済活動が両立する持続可能な社会の実現に向け、取組みを推進していきます。



2050年に向けたKPIと目標

	脱炭素	資源循環	自然再興
2050 年度 目標	カーボンニュートラルの実現 鹿島グループの温室効果ガス排出量 (スコープ1,2,3)実質ゼロ	サーキュラーエコノミー (再資源化率100%)の実現 良質なインフラ資産を基盤にサステナブル な資源で更新	ネイチャーポジティブの実現 サプライチェーン全体で自然再興に取り組み、生態系サービスを持続的に享受できる 社会を実現する
2030 年度 目標	■排出量(2021年度比) スコープ1,2 ▲42% スコープ3 ▲25% ●電力グリーン化 100% ●バイオ燃料転換率 65%** ●低炭素コンクリート使用 40%** ●電炉鋼鉄骨使用 20%** ●ZEB水準 100%実現**	■主要資材における再生材使用率 60%* ■再資源化等率 99%* ■木造/木質化建築の定着 ■廃棄物資源化技術の普及*	■顧客・社会へのNbS提供 (環境認証等取得)累計 100件* ■自社所有地での自然再興の拡大*
2026 年度 目標	■排出量(2021年度比) スコープ1,2 ▲23% スコープ3 ▲10% ●電力グリーン化の実施 ●バイオ燃料の使用** ●低炭素コンクリート使用** ●電炉鋼鉄骨使用** ●ZEBによる省エネ率 40%**	■主要資材における再生材使用率 40%* ■再資源化等率 97%* ■木造/木質化建築の拡大 ■廃棄物資源化技術の開発*	■顧客・社会へのNbS提供 (環境認証等取得)件数 10件/年* ■自社所有地での自然再興に着手*

*: 鹿島単体+国内グループ会社事業における目標 **: 鹿島単体における目標

3か年目標と2025年度実績

	3か年(2024～2026年度)目標	2025年度目標	2025年度実績
脱炭素	【施工】 ● 自社排出: スコープ1, 2 CO₂排出量: ▲23% (目標排出量: 28.8万t-CO₂) ● サプライチェーン排出: スコープ3 CO₂排出量: ▲10% (目標排出量: 1,108万t-CO₂) ・ZEBによる省エネ率40%	● スコープ1,2(自社排出量) CO₂排出量 2021年度比: ▲18.4% (目標排出量: 30.5万t-CO₂)※ ● スコープ3 (サプライチェーン上流/下流排出量) サプライチェーン排出(スコープ3) CO₂排出量: 2021年度比▲8% (目標排出量: 1,133万t-CO₂)※ ※: 基準年(2021年度)と2026年度目標から線形補充にて算出した数値	● スコープ1,2(自社排出量) CO₂排出量 2021年度比: 5.4%増加 (排出量: 39.5万t-CO₂) ● スコープ3 (サプライチェーン上流/下流排出量) CO₂排出量 2021年度比: 17.1%増加 (排出量: 1,442万t-CO₂)
	【設計】 ● スコープ3(下流) ・運用段階CO₂削減40%以上 (2013年省エネ基準比) ● スコープ3(上流) ・環境配慮コンクリート(エコクリート、スイコム等)の適用: 30%以上 (件数比率、着工時) ・主要構造部材(柱・梁)への電炉鋼の適用: 60% (件数比率、S造着工時)	● スコープ3(下流) ・ZEB/ZEH等ラベリング制度の活用推進: 新築JOBの60%以上(件数比率、CASBEE、SITES等との合計)、ZEB/ZEH認証取得10件以上 ・社内省エネ基準(ZEB/ZEH水準)の達成: 事務所・学校・工場: BEI≤0.6、ホテル・物販・飲食・病院・集会: BEI≤0.7、住宅代表住戸BEI≤0.80 ● スコープ3(上流) ・環境配慮コンクリート(エコクリート、スイコム等)の適用: 30%以上(件数比率、着工時) ・主要構造部材(柱・梁)への電炉鋼の適用: 60%(件数比率、S造着工時)	● スコープ3(下流) ・ラベリング制度の活用推進: 65.86% ・ZEB/ZEH認証取得6件 ・社内省エネ基準(ZEB/ZEH水準)の達成 事務所・学校・工場: BEI≤0.504、ホテル・物販・飲食・病院・集会: BEI≤0.554 住宅: 該当なし ● スコープ3(上流) ・環境配慮コンクリートの適用: 31% ・主要構造部材への電炉鋼の適用: 67%
資源循環	【施工】 ● 主要資材での再生材利用率: 40% ● 木造/木質化の拡大 ● 建設廃棄物の再資源化等率: 97% ● 廃棄物等の発生抑制(継続) ● 資源化技術の開発/普及拡大	● 主要資材での再生材利用率: 38% ● 木造/木質化の拡大 ● 建設廃棄物の再資源化等率: 97% ● 廃棄物等の発生抑制(継続) ● 資源化技術の開発/普及拡大	● 主要資材での再生材利用率: 36% 低炭素コンクリート12%、 電炉鋼鉄骨32% ● 木造/木質化建築の設計案件10件 (鹿島東北支店ビル、KX-FOREST KARUIZAWA 鹿島軽井沢泉の里保養所、ほか) ● 再資源化等率 96.6%
自然再興	● 顧客・社会へのNbS提供(環境認証含む): 新規10件/年 ● 自社所有地での自然再興に着手 ● 有害物の適正処理/水環境管理の徹底(継続) ● 環境修復ビジネス(継続)	● 顧客・社会へのNbS提供(環境認証含む): 新規10件/年 ● 自社所有地での自然再興に着手 ● 有害物の適正処理/水環境管理の徹底(継続) ● 環境修復ビジネス(継続)	● 顧客・社会へのNbS提供: 5件/年 (詳細は10頁に) ● 重大な法違反や環境影響はなく環境事故に発展せず

鹿島建設単体 マテリアルフロー

■ 建設現場

INPUT	
● エネルギー	
電力	8,317 万kWh ☒
うちグリーン電力	1,071 万kWh
軽油	60,931 kℓ ☒
GTL	359 kℓ ☒
B100	5 kℓ ☒
B5	1,134 kℓ ☒
RD100	0.1 kℓ ☒
RD40	4 kℓ ☒
RD51	1 kℓ ☒
灯油	595 kℓ ☒
ガソリン	465 kℓ ☒
重油	297 kℓ ☒
ガス	3.2 万m ³ ☒
● 水	
上水使用量	136 万m ³ ☒
● 建設資材	
	1,056 万t

OUTPUT	
● CO ₂ 排出量	19.8 万t ☒
● 下水排出量	121.2 万m ³ ☒
● 建設発生土	266.0 万m ³ ☒
● 有害物質回収量	
アスベスト含有建材	751 t ☒
フロン・ハロン	0.4 t ☒
蛍光管	26.7 t ☒
● 建設廃棄物	173.0 万t ☒
● 最終処分量	6.2 万t ☒

建設廃棄物の発生量と最終処分量

発生量	173.0 万t ☒
発生量(汚泥除く)	99.4 万t ☒
最終処分量	6.2 万t ☒
最終処分量(汚泥除く)	3.4 万t ☒
再資源化等率	96.6% ☒

■ オフィス・不動産(共用部)

INPUT	
● エネルギー	
電力	4,957 万kWh ☒
うちグリーン電力	1,706 万kWh
軽油	8 kℓ ☒
灯油	29 kℓ ☒
重油	0 kℓ ☒
ガソリン	214 kℓ ☒
ガス	281.9 万m ³ ☒
熱・蒸気・冷却	17,160 GJ ☒
● 水 ^{※1}	
上水使用量	19.7 万m ³ ☒

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	2.2 万 ☒
下水排出量 ^{※1}	19.7 万m ³ ☒
廃棄物発生量 ^{※1}	1,544 t ☒

※1 鹿島単体国内及び海外に設けたオフィスのみの値

■ データ対象範囲: 鹿島建設単体及び国内外連結子会社

- ・鹿島建設単体: 国内及び海外の直轄建設現場、オフィスのすべてと不動産の共用部(海外現地法人は対象外)
- ・国内外連結子会社: 国内外の建設現場、オフィス、工場すべて

■ 第三者検証に関して

- ・2025年度の環境パフォーマンスデータ温室効果ガス排出量(スコープ1・2・3)、エネルギー使用量、上水使用量、下水排出量、有害物質、廃棄物排出量について一般財団法人日本品質保証機構(JQA)による第三者検証を受けています。第三者検証を受けた項目には ☒ マークを記載しました。(検証書類を末頁に添付)

鹿島建設単体 スコープ別CO₂排出量

		(年度)				
		2021 ^{※2}	2022 ^{※2}	2023	2024	2025
スコープ1	万t-CO ₂	14.9	18.9	17.9	19.2	17.2 ☒
スコープ2	万t-CO ₂	4.2	4.6	4.8	5.2	4.8 ☒
スコープ3	万t-CO ₂	878.8	1,208.2	1,143.7	738.6	946.8 ☒
カテゴリ1 (購入した製品・サービス)	万t-CO ₂	405.6	570.2	500.8	437.9	375.0 ☒
カテゴリ2 (資本財)	万t-CO ₂	8.7	9.9	8.4	12.7	11.6 ☒
カテゴリ3 (スコープ1, 2に含まれない燃料 またはエネルギー関連活動)	万t-CO ₂	2.8	3.5	3.3	3.7	3.9 ☒
カテゴリ4 (輸送・配送 上流)	万t-CO ₂	39.5	57.1	50.2	45.0	38.7 ☒
カテゴリ5 (事業から出る廃棄物)	万t-CO ₂	1.0	1.1	1.1	0.9	0.8 ☒
カテゴリ6 (出張)	万t-CO ₂	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1 ☒
カテゴリ7 (雇用者の通勤)	万t-CO ₂	0.6	0.5	0.6	0.6	0.6 ☒
カテゴリ8 (リース資産・上流)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 ☒
カテゴリ9 (輸送・配送 下流)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 ☒
カテゴリ10 (販売した製品の加工)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 ☒
カテゴリ11 ^{※1} (販売した製品の使用)	万t-CO ₂	409.7	546.6	543.1	201.3	502.4 ☒
カテゴリ12 (販売した製品の廃棄)	万t-CO ₂	9.6	15.6	13.2	12.8	9.2 ☒
カテゴリ13 ^{※2} (リース資産・下流)	万t-CO ₂	1.1	3.6	1.9	3.3	2.5 ☒
カテゴリ14 (フランチャイズ)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 ☒
カテゴリ15 ^{※3} (投資)	万t-CO ₂	0.0	0.0	21.0	20.3	1.9 ☒
スコープ1, 2, 3合計	万t-CO ₂	897.8	1,231.7	1,166.4	763.0	968.8 ☒

※1 カテゴリ11:当該年度に竣工した建築物のライフサイクル(60年と設定)の運用時CO₂排出量を計上

※2 カテゴリ13:2021年度と2022年度のカテゴリ13におけるグループ内のダブルカウントを見直し

※3 カテゴリ15:2023年度から連結・非連結子会社、関連会社の排出するCO₂を計上

鹿島グループ スコープ別CO₂排出量

		(年度)				
		2021※	2022※	2023	2024	2025
スコープ1	万t-CO ₂	24.5	29.1	27.1	28.3	25.5(※)
		24.5	29.1	27.1	28.3	25.8
スコープ2	万t-CO ₂	12.9	13.8	14.3	14.9	13.9
スコープ3	万t-CO ₂	1,345.3	2,030.0	1,936.0	1,355.1	1,557.8
カテゴリ1 (購入した製品・サービス)	万t-CO ₂	615.3	921.6	828.4	695.0	610.5
カテゴリ2 (資本財)	万t-CO ₂	19.8	29.3	16.2	25.6	20.8
カテゴリ3 (スコープ1, 2に含まれない燃料 またはエネルギー関連活動)	万t-CO ₂	6.0	6.5	5.9	6.4	6.3
カテゴリ4 (輸送・配送 上流)	万t-CO ₂	57.8	89.7	81.1	80.9	61.2
カテゴリ5 (事業から出る廃棄物)	万t-CO ₂	2.7	5.2	6.1	1.9	1.7
カテゴリ6 (出張)	万t-CO ₂	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
カテゴリ7 (雇用者の通勤)	万t-CO ₂	1.4	1.3	1.4	1.5	1.3
カテゴリ8 (リース資産・上流)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カテゴリ9 (輸送・配送 下流)	万t-CO ₂	1.3	0.6	0.4	0.4	0.7
カテゴリ10 (販売した製品の加工)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カテゴリ11 (販売した製品の使用)	万t-CO ₂	615.7	935.3	944.7	488.4	831.2
カテゴリ12 (販売した製品の廃棄)	万t-CO ₂	13.2	26.0	22.5	24.7	13.0
カテゴリ13 (リース資産・下流)	万t-CO ₂	8.7	10.6	8.0	9.8	8.8
カテゴリ14 (フランチャイズ)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カテゴリ15 (投資)	万t-CO ₂	3.0	3.7	21.0	20.3	1.9
スコープ1, 2, 3合計	万t-CO ₂	1,382.7	2,072.9	1,977.3	1,398.3	1,597.3(※)
		1,382.7	2,072.9	1,977.3	1,398.3	1,597.5

スコープ1：※印：国内グループ会社においてカーボンニュートラル都市ガス使用を反映した数値。

：海外グループ会社が施工する工事において協力会社が使用する軽油を除く

スコープ3：

- ・カテゴリ1：海外グループ会社が施工する工事において協力会社が使用する軽油を含む
- ・カテゴリ11：当該年度に竣工した建築物のライフサイクル(60年と設定)の運用時CO₂排出量を計上
- ・カテゴリ15：2023年度から連結・非連結子会社、関連会社の排出するCO₂を計上

スコープ3の値と、各カテゴリの合計は四捨五入の関係で一致しません。

鹿島グループのCO₂排出量

		スコープ1	スコープ2	スコープ1,2	スコープ3
鹿島建設(単体)	万t-CO ₂	17.2	4.8	22.0	946.8
国内グループ会社	万t-CO ₂	6.5	2.2	8.7	88.2
海外グループ会社	万t-CO ₂	1.8	7.0	8.8	522.9
鹿島グループ合計	万t-CO ₂	25.5	13.9	39.5	1,557.8

国内グループ会社においてカーボンニュートラル都市ガス使用を反映した数値で算出。

各カテゴリの合計は四捨五入の関係で一致しません。

—— 脱炭素 ——

鹿島建設単体 エネルギー使用量		(年度)				
		2021	2022	2023	2024	2025
全エネルギー使用量※	万MWh	86.6	108.2	105.7	115.2	105.2 ☒
化石燃料使用量	万MWh	60.0	75.5	72.7	76.5	68.9 ☒
うち 建設現場	万MWh	59.7	75.2	70.7	74.5	65.5 ☒
うち オフィス・不動産(共用部)	万MWh	0.2	0.2	1.9	2.0	3.4 ☒
軽油代替燃料使用量 (B100、B5、GTL、RD)	万MWh		0.6	0.6	1.5	1.6 ☒
うち 建設現場	万MWh		0.6	0.6	1.5	1.6 ☒
うち オフィス、不動産(共用部)	万MWh		0.0	0.0	0.0	0.0 ☒
電力購入量	万MWh	9.4	11.4	11.8	13.2	13.3 ☒
うち 建設現場	万MWh	6.6	8.7	7.6	8.1	8.3 ☒
うち オフィス・不動産(共用部)	万MWh	2.8	2.7	4.1	5.1	5.0 ☒
グリーン電力購入量	万MWh					2.8
うち 建設現場	万MWh					1.1
うち オフィス・不動産(共用部)	万MWh					1.7
蒸気・熱・冷水購入量 (オフィス、不動産のみ)	万MWh	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6 ☒

※ 全エネルギー消費量は電力購入量を一次エネルギー換算した数値を合計しているため、各項目の単純合計値とは異なります。

建物の省エネルギー設計に伴うCO ₂ 削減量		(年度)				
		2021	2022	2023	2024	2025
建物の省エネルギー設計に伴うCO ₂ 削減量※	万t-CO ₂	20.5	42.2	42.2	45.3	76.4

※ 当該年度に竣工した自社設計建築物の省エネルギー設計に伴う削減量(年間)に建築物のライフサイクル(20年)を乗じたもの。建設・不動産セクターにおける削減貢献量ガイドライン検討会による「建設・不動産セクターにおける温室効果ガス削減貢献量算定方法」が一般的な運用年数を20年としていることを踏まえたもの。

— 資源循環 —

鹿島建設単体

資材の使用量

(年度)

主要資材			2021	2022	2023	2024	2025
鉄	総使用量	t	867,860	943,593	1,109,909	920,212	985,207
セメント・コンクリート	総使用量	t	4,338,657	8,021,759	4,838,117	5,339,082	3,226,767
砕石	総使用量	t	1,663,110	1,860,099	2,894,952	3,778,464	2,958,971
アスファルト	総使用量	t	3,040	417,130	673,122	434,099	298,561
その他	総使用量	t	1,200,113	2,111,643	1,478,622	1,129,480	3,093,302
合計	総使用量	t	8,072,781	13,354,224	10,994,722	11,601,337	10,562,808

※ 2021年度からは全建設資材を集計している。

建設廃棄物の発生量と再資源化等率

(年度)

		2021	2022	2023	2024	2025
発生量	万t	228.6	188.2	180.5	184.6	173.0 ☒
発生量(汚泥除く)	万t	151.5	120.8	117.8	113.1	99.4 ☒
最終処分量	万t	5.4	5.1	5.4	6.1	6.2 ☒
最終処分量(汚泥除く)	万t	3.7	4.3	4.3	3.4	3.4 ☒
再資源化等率※	%	—	—	—	97.0	96.6 ☒

※2024年度から、KPIを最終処分率から再資源化等率に変更。

2025年度品目別発生量

品目	発生量	発生量/全体
コンクリート塊	581,110t ☒	34% ☒
アスファルト・コンクリート塊	75,939t ☒	4% ☒
発生木材	25,934t ☒	1% ☒
建設汚泥	736,150t ☒	43% ☒
混合廃棄物	36,185t ☒	2% ☒
廃プラスチック	7,687t ☒	0.4% ☒
その他	267,398t ☒	15% ☒
合計	1,730,402t ☒	100% ☒

オフィスの廃棄物発生量

(年度)

		2021	2022	2023	2024	2025
廃棄物	t	2,129.4	1,650.8	1,680.4	1,555.9	1,543.8 ☒

上水使用量

(年度)

		2021	2022	2023	2024	2025
建設現場	万m ³	91.8	122.7	129.4	122.9	135.9 ☒
オフィス	万m ³	16.2	17.0	19.2	18.4	19.7 ☒
合計	万m ³	108.1	139.7	148.6	141.4	155.6 ☒

下水排出量

(年度)

		2021	2022	2023	2024	2025
建設現場	万m ³	98.3	92.4	115.6	98.6	121.2 ☒
オフィス	万m ³	16.2	17.0	19.2	18.4	19.7 ☒
合計	万m ³	114.5	109.4	134.8	117.1	140.9 ☒

注:建設現場で上水使用量より下水処理量が多いのは、雨水や湧水を処理しているためです。

— 資源循環 —

品目別処理量

(年度)

品目			コンクリート塊			アスファルト・コンクリート塊			発生木材		
			2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
処理区分	リサイクル量	t	687,837	577,834	580,558 ☒	115,814	74,781	75,780 ☒	40,553	67,831	25,101 ☒
	減量化量	t	331	54	18 ☒	40	36	8 ☒	785	382	515 ☒
	最終処分量	t	1,388	4,027	534 ☒	646	379	151 ☒	601	262	318 ☒
	総計	t	689,556	581,916	581,110 ☒	116,501	75,196	75,939 ☒	41,938	68,475	25,934 ☒
品目			建設汚泥			廃プラスチック※			混合廃棄物		
			2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
処理区分	リサイクル量	t	474,117	631,228	663,703 ☒	5,823	5,133	5,011 ☒	36,207	23,114	24,808 ☒
	減量化量	t	40,771	57,180	44,725 ☒	874	512	721 ☒	1,584	1,983	1,712 ☒
	最終処分量	t	11,455	27,163	27,722 ☒	3,135	2,161	1,954 ☒	8,216	9,397	9,665 ☒
	総計	t	526,343	715,571	736,150 ☒	9,832	7,806	7,687 ☒	46,006	34,494	36,185 ☒

※ 廃プラスチックとして分別した数量です。混合廃棄物に混入しているものは含みません。

品目別リサイクル率

(年度)

品目			コンクリート塊			アスファルト・コンクリート塊			発生木材		
			2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
処理区分	リサイクル率	%	99.8	99.3	99.9 ☒	99.4	99.4	99.8 ☒	96.7	99.1	96.8 ☒
	減量化率	%	0.0	0.0	0.0 ☒	0.0	0.0	0.0 ☒	1.9	0.6	2.0 ☒
	最終処分率	%	0.2	0.7	0.1 ☒	0.6	0.5	0.2 ☒	1.4	0.4	1.2 ☒
	総計	%	100	100	100 ☒	100	100	100 ☒	100	100	100 ☒
品目			建設汚泥			廃プラスチック※			混合廃棄物		
			2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
処理区分	リサイクル率	%	77.8	88.2	90.2 ☒	59.2	65.8	65.2 ☒	78.7	67.0	68.6 ☒
	減量化率	%	20.4	8.0	6.1 ☒	8.9	6.6	9.4 ☒	3.4	5.7	4.7 ☒
	最終処分率	%	1.8	3.8	3.8 ☒	31.9	27.7	25.4 ☒	17.9	27.2	26.7 ☒
	総計	%	100	100	100 ☒	100	100	100 ☒	100	100	100 ☒

鹿島グループの資源循環

主要資材			2023	2024	2025
主要資材使用量	単体	t	9,420,840	9,197,124	7,400,315
	グループ	t	12,792,201	12,788,585	9,865,569
主要資材での再生材利用率	単体	%	20.6	16.8	22.9
	グループ	%	34.3	34.0	36.0
総廃棄物量	単体	t	1,179,321	1,132,308	994,252
	グループ	t	1,547,173	1,438,237	1,257,088
リサイクル量	単体	t	1,135,445	1,097,829	920,257
	グループ	t	1,483,987	1,385,906	1,175,763
最終処分量	単体	t	43,876	34,479	34,727
	グループ	t	63,186	52,213	40,395
再資源化等率	単体	%	96.2	97.0	96.6
	グループ	%	95.9	96.4	93.5

※ 鹿島単体及び国内連結子会社のみ集計している。

※ 汚泥は除く。

—— 自然再興 ——

鹿島建設単体

■ 自然再興

2025年度NbS提供実績(環境認証取得、受賞等)

	件名	認証名／賞名
1	芝御成門タワー	JHEP Aランク
2	あてま高原ベルナティオ	自然共生サイト(新法)
3	日影山山林・ボナリ山林	自然共生サイト(新法)
4	十日町三ヶ村地区における棚田再生	令和6年度 土木学会賞環境賞 IIグループ
5	藻場再生(神奈川県葉山町)	Jブルークレジット®

■ 有害物質の管理

フロン・ハロン回収量

		2021	2022	2023	2024	2025
回収量	t	1.9	3.2	1.0	0.4	0.4 ☒

廃蛍光管回収量

		2021	2022	2023	2024	2025
回収量	t	66.4	49.1	47.8	32.5	26.7 ☒

PCB含有機器の処分

		2021	2022	2023	2024	2025
		0	0	204.4(kg)	2,297(個)	0 ☒

有害物質処分量

		2021	2022	2023	2024	2025
フロン・ハロン、 廃蛍光管(水銀)、 石綿及びその他有害物質	t	62,867	141,402	107,022	142,197	166,120 ☒

アスベスト含有建材回収量

		2021	2022	2023	2024	2025
回収量	t	8,916	5,627	2,374	2,615	751 ☒

土壌汚染調査の実績

		2021	2022	2023	2024	2025
指定調査機関としての調査件数	件	25	15	15	9	32
うち法調査件数	件	8	9	11	9	28

大気汚染物質の排出量

		2021	2022	2023	2024	2025
NOx	t	987	1,252	1,196	1,284	1,159 ☒
SOx	t	147	186	178	191	172 ☒

2025年度環境会計報告

鹿島では、建設業の特性を踏まえ、環境会計の対象を建設廃棄物に限定したセグメント会計として算定しています。
建設廃棄物は、マニフェスト管理により排出量・処理量の把握精度が高く、処理費用およびCO₂排出量の両面から環境影響を評価できるためです。

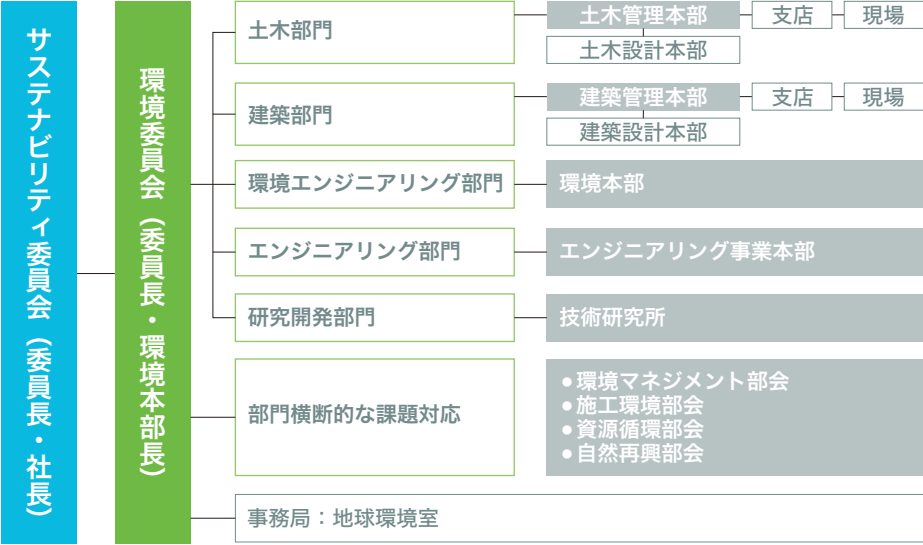
算定対象と考え方	
算定対象	鹿島建設単体
算定方法	
① 廃棄物量	マニフェスト伝票の数値を一元管理している環境情報システムから、廃棄物のリサイクル量、最終処分量出力。
② 処理費	会計データより廃棄物運搬、処理にかかる費用を出力。
③ CO ₂ 排出量	品目別廃棄物量に、廃棄物運搬時、廃棄時のCO ₂ 排出量原単位を乗じて算出。 バウンダリーは現場から最初に搬出される中間処理施設・処分場までとし、当該施設以降は対象外としている。 海外現場は廃棄物に関する基準や処理方法が国によって大きく異なるため対象外。
管理改善	処理会社の選定や分別精度の向上により、処理費用やCO ₂ 排出量の低減につなげやすい。
環境・コスト両面での評価	廃棄物処理をコストと環境影響の両面から評価し、環境リスク低減の取組みに活用できる。

環境会計サマリー		2023年度	2024年度	2025年度
建設廃棄物排出量※	万t	152.1	148	173
CO ₂ 排出量 (施工起因CO ₂ に占める割合)	万t-CO ₂ (%)	0.2 (0.7)	0.2 (0.9)	0.1 (0.6)
建設廃棄物処理費用 (施工高に占める割合)	億円 (%)	144 (1.0)	151 (1.0)	199 (1.2)
環境対応に関する研究開発投資額	億円	94	131	155

※ 建設廃棄物は主要な6品目

2025年度主要建設廃棄物排出量とCO ₂ 排出量		
品目	排出量(t)	CO ₂ 排出量(t-co ₂)
汚泥	736,150	189
コンクリート塊	581,110	625
アスファルト・コンクリート塊	75,939	82
混合廃棄物(管理)	3,752	17
混合廃棄物(安定)	31,899	75
発生木材	25,934	271
合計	1,454,783	1,258
参考:全廃棄物	1,730,401.7	8,438
主要品目比率	84%	15%

環境マネジメント体制



ISO14001の認証登録範囲は、本社ビル群、技術研究所、全支店の16拠点です。
(ただし開発事業本部は認証登録外)

鹿島グループでは各社で品質や環境、安全など最適なマネジメントシステムを運用しています。

鹿島建設は、ISO14001に準拠して、環境マネジメントシステムを運用しており、サステナビリティ委員会の下部専門委員会である環境委員会のもと、土木、建築、環境、エンジニアリング、研究開発の5部門で活動を推進しています。部門横断的な課題については、環境マネジメント、施工環境、資源循環、自然再興の4つの部会のほか、省エネ法対応などもワーキンググループを組織して活動しています。

グループ会社については、国内外のグループ会社のエネルギー使用量を調査し、特に排出の多い会社とは削減策の検討をしています。

環境マネジメントシステム認証



第三者検証報告

JQA 発行日: 2025年8月5日 第1811005354号

環境情報検証報告書

鹿島建設株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、鹿島建設株式会社が作成した、2025年度の「鹿島建設株式会社 環境パフォーマンスの測定(2025年7月14日)」、「鹿島建設の国内連結子会社(鹿島建設18社)を除く」環境パフォーマンスの測定(2025年7月14日)、「鹿島建設株式会社 海外連結子会社 環境パフォーマンスの測定(2025年7月14日)」及び「鹿島グループ 海外連結子会社 環境パフォーマンスの測定(2025年7月14日)」(以下、「測定報告書」という。)、が、鹿島建設株式会社により作成された「鹿島建設 環境パフォーマンスの測定(2025年7月14日)」、「国内連結子会社におけるGHG排出量測定マニュアル(2025年7月14日)」、「海外グループ会社【建設事業】温室効果ガス排出量スコープ1、2、3 マニュアル(2025年7月14日)」及び「海外グループ会社【開発事業】温室効果ガス排出量スコープ1、2、3 マニュアル(2025年7月14日)」(以下、「測定マニュアル」という。)、に準拠し、適切に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2025年度とは、2025年4月1日から2025年3月31日まで、海外連結子会社及びイートンリアルエステート株式会社では2025年1月1日から2025年12月31日までの期間という。検証の目的は、測定報告書を客観的に評価し、鹿島建設株式会社の2025年度の環境情報の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、測定報告書(SHG)の排出量及びエネルギー使用量については「ISO14064-3」、エネルギー使用量、温室効果ガス、最終処分量、再資源化率、有害物質排出量-移動量、PCD含有機物の割合計算及びNO_x、SO_x発生量については「ISO14064-3」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象組織図及び対象活動範囲については下表のとおりであり、検証基準は「測定報告書」に記載の範囲とそれぞれの結果の95%とした。

対象組織範囲	対象活動範囲
鹿島建設株式会社	Scope1のエネルギー-起源CO ₂ 排出量(サーキット基準)、エネルギー使用量、Scope2のGHG排出量(サーキット基準)、Scope3のGHG排出量(サーキット基準)、エネルギー使用量及びScope3のGHG排出量(2025年7月14日)
国内連結子会社18社及び海外連結子会社187社	Scope1のエネルギー-起源CO ₂ 排出量(サーキット基準)、エネルギー使用量及びScope3のGHG排出量(2025年7月14日)
国内及び海外の建設-土木取組	Scope1のエネルギー-起源CO ₂ 排出量(サーキット基準)、エネルギー使用量及びScope3のGHG排出量(2025年7月14日)
国内194拠点、海外45拠点を有するオフィス及び工場並びに国内40拠点、海外19拠点を有するリース物件	Scope1のエネルギー-起源CO ₂ 排出量(サーキット基準)、エネルギー使用量及びScope3のGHG排出量(2025年7月14日)

検証では、測定-集計体制、測定シナリオ等を含む測定基準の検証及び測定結果について信頼資料との突き合わせ等を実施した。Scope1、エネルギー使用量については、サンプリングにて鹿島建設株式会社のオフィス1拠点、国内連結子会社のオフィス1拠点、工場等1拠点、海外連結子会社のオフィス1拠点、建設-土木取組1拠点の信頼性資料と、信頼性資料では有時点における測定対象範囲の検証、GHG排出量及びエネルギーサンプリングの検証、測定-集計体制の検証、活動量及び排出量データについて信頼資料との突き合わせを行った。エネルギー使用量、土木取組、有害物質発生量、最終処分量及び再資源化率、Scope3、有害物質排出量-移動量、PCD含有機物の割合計算及びNO_x、SO_x発生量に関しては全拠点を対象として測定データと信頼資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結果

検証の対象とした、測定報告書の2025年度の環境情報について、測定マニュアルに準拠せず、変更し算定されている事項は発見された。なお、鹿島建設株式会社における測定結果は対象範囲の95%に、鹿島建設株式会社、国内連結子会社18社及び海外連結子会社187社における測定結果は対象範囲の95%に準拠している。

4. 留意事項

測定報告書の測定責任は鹿島建設株式会社にあり、環境情報の検証の結果に関する責任は当機構にある。鹿島建設株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京第1年次第三者検証報告書一丁第25章
一般財団法人日本品質保証機構
常務理事 渡辺 純男

本書と付属書を合わせてご覧ください。
3 / 3

JQA 発行日: 2025年8月5日 第1811005354号

環境情報検証報告書

鹿島建設株式会社 御中

【付属書】

表1 鹿島建設株式会社における算定結果

項目	単位	算定結果
Scope1のエネルギー-起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	172,292
Scope2のエネルギー-起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	47,580
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	9,467,748
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	3,749,953
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	116,015
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	38,510
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	386,732
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	8,438
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	1,165
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	5,241
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	5,024,201
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	92,093
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	25,434
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	19,466
エネルギー-使用量	MWh	1,052,408
土木取組	m ³	1,536,250
土木取組	m ³	1,408,902
有害物質	t	1,730,402
建設廃棄物の発生量(汚泥含む)	t	61,264
建設廃棄物の最終処分量(汚泥含む)	t	96.6
4-Frの有害物質発生量	t	1,544
有害物質	t	166,120
有害物質排出量-移動量	t	0
PCD含有機物の割合計算	%	1.199
NO _x 発生量	t	172
SO _x 発生量	t	172

本書と付属書を合わせてご覧ください。
3 / 3

JQA 発行日: 2025年8月5日 第1811005354号

環境情報検証報告書

鹿島建設株式会社 御中

【付属書】

表1 鹿島建設株式会社、国内連結子会社18社及び海外連結子会社187社における算定結果

項目	単位	算定結果
Scope1のエネルギー-起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	257,668
Scope2のエネルギー-起源CO ₂ 排出量	t-CO ₂	255,434
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	15,578,471
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	6,105,363
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	208,252
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	62,583
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	612,172
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	17,192
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	3,131
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	13,492
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	5,965
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	8,311,668
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	130,428
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	82,757
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	0
Scope3のGHG排出量	t-CO ₂ e	19,466
エネルギー-使用量	MWh	1,631,086

表1のエネルギー-使用量の計算には1000kWhの調査結果が使用された場合

本書と付属書を合わせてご覧ください。
3 / 3